

しょうをつんでだいとなす

積小為大



豊川市立東部小学校
校長室だより
令和元年7月号

1学期が終わります。有意義な夏休みに！ 普通教室のエアコン工事が完了しました。

梅雨入り直後は雨が降らず、おかげさまで野外活動も晴天の中で行うことができました。その後、7月に入ってから梅雨空が続き、気温の低い「梅雨寒」の日もありました。

昨年度3学期から始まった普通教室空調設備設置工事も6月末にほぼ完了し、全普通教室でエアコンが稼働しています。

早いもので、これを執筆している今、懇談会が始まり、間もなく1学期も終えようとしています。学校、学級の新しいスタートの4月、今年のゴールデンウィークは10連休で、元号も「令和」に変わりました。行事もたくさんあり、正に怒濤のような1学期ではありましたが、とても充実した教育活動を積み重ねることができました。

いよいよ迎える約40日間に渡る夏休み。ご家族で話し合っってしっかりと計画を立て、有意義な夏休みを迎えられることを期待します。

6月17日～19日5年生野外活動

梅雨とは思えぬほどの素晴らしい天候の中、5年生は豊川市野外教育センター「きららの里」で2泊3日の野外活動を行いました。班で協力してカレーライスなどの食事を作ったり、炭火でニジマスを焼いて食べたり、星空を見上げたり素晴らしい経験ができました。

2日目の「森林教室」では、ボランティアガイドさんの案内で段戸裏谷原生林（きららの森）を歩き、植物や動物、森のはたらきなどについて知ることができました。



モリアオガエルの卵を見たり、ブナやミズナラの大木を見上げたり、モミとツガの違いを覚えたり、現地であれば体験できない貴重な経験をしました。



2日目の夜は、学校で準備や練習を重ねてきたキャンプファイヤー。子どもたちの心の中に一生忘れられない思い出となるでしょう。

各学年の様々な行事、体験学習

1年生はアルソックを講師に迎え「あんしん教室」を実施しました。2年生は生活科の授業で3地区の「町たんけん」に出かけました。3年生は交通指導員や交通安全指導隊のご協力で「自転車安全教室」を行いました。4年生は消防署東分署見学や、豊川市中央図書館に「プラネタリウム」の見学に行きました。5年生は野外活動以外にも「田植え」を行い、農業、米作りを学んでいます。6年生は総合的な学習で、校区の農業の特色でもある薬物や花きの温室栽培について知り、天野ばら園さんのご協力でバラの刺し木を体験しました。また、三河国分尼寺跡史跡公園の見学や、豊川市平和記念公園の見学も行いました。



大沢謙二(1852~1927)



大沢謙二は1852年(嘉永5年)三河国宝飯郡当古村(現在の豊川市当古町)で、神社の神主をしていた大林美濃の四男として生まれました。幼名を「右近次」といいました。豊川で鮎をとって遊んだり、厳しい父のもとで学問や弓のけいこに励みました。

1862年(文久2年)10歳になった右近次は、その才能を見込まれ、豊橋藩の藩医、大沢玄龍の養子になりました。大沢家では、当主の名は玄龍、長男の名は謙二と決まっていたため、右近次は謙二と名を改めました。

14歳の時に、三河を離れ、江戸(今の東京)の西洋医学所で学ぶことになりました。そこで、全国から集まった秀才と共に学びました。

1870年(明治3年)、13名の医学留学生の一人に選ばれ、ドイツのベルリン大学で学びました。

帰国後、東京医学所(後の東京大学医学部)の教員となりましたが、もう一度ドイツで学びたいと考え、自費で再びドイツに留学しました。シュトラスブルク大学で生理学の研究を続けました。

1882年(明治15年)ドイツから帰国し、一緒に留学していた池田謙齋とともに東京大学医学部の教授になりました。日本で初めて「日本人教授」が誕生したのです。

1888年(明治21年)謙二はついに日本の医学博士第一号となりました。その翌々年の1890年には、帝国大学(今の東京大学)医科大学学長に就任し、貴族院議員に勅選されました。

1915年(大正4年)退職し、東京帝国大学の名誉教授になりました。

1927年(昭和2年)74才で亡くなりました。

東京に出た後、常に忙しく、学んだり仕事に励んだ謙二はめったに故郷である三河に帰ることができませんでした。それでも、豊橋や当古に戻ることがあると、「今の私があるのは、養父玄龍と実父美濃のおかげです。」と周りの人々に言っていたそうです。

そして、こんな話をしていたそうです。※

「豊川(とよかわ)の町もなつかしいですが、それにも増して豊川(とよがわ)のことをよく思い出します。みなさんも知っているように、私は豊川の流に近い当古で生まれました。三河の山奥から流れてくるあの川の音は、いつも私を元気づけてくれました。また、石巻山や本宮山のどっしりした姿も、目をつむると、すぐにうかんできました。静かなお宮の森、にぎやかな花火の上がるお祭り、豊川での水泳なども忘れることができません。故郷の山や川、そして幼なじみ、村の人たち。みんななつかしい思い出として、私をはげましてくれました。」

※引用 あいちの偉人④12の話 当たってください



参照

・フリー百科事典「ウィキペディア (Wikipedia)」

・あいちの偉人④12の話 当たってください

編集 愛知県小中学校長会

愛知県小中学校PTA連絡協議会

名古屋市立小中学校PTA協議会

発行 公益財団法人 愛知県教育振興会

文責 (校長 金澤哲哉)